

## 主日礼拝

2026年5月3日 10時20分～

司式:

奏楽:

## 「まことのぶどうの木」

『出エジプト記』では、エジプトを出たイスラエルの民は、シナイ山の前に宿営しました。主がモーセを山の上に呼び寄せられ、民に語るべき御言葉が告げられます。まず神は、エジプトに対してなした裁きと、イスラエルを鷲の翼に乗せるようにして守り導き、ご自身のもとへ連れて来た救いの出来事を想起させます。これは神の恵みが契約の前提であることを示しています。その上で、もし神に聞き従い、その契約を守るならば、イスラエルは全ての民の中から特別に選ばれた神の宝の民になると約束されます。全地は神のものであり、その中でイスラエルは特別な使命を与えられるからです。さらに彼らは、神に仕える祭司の王国、また聖なる国民としての身分を与えられるとのこと。ここにはイスラエルが単に救われるだけでなく、神と諸国民との間に立つ仲介的役割を担う存在として召されているのです。このようにして神は、救いの恵みに基づく契約関係と、その中でイスラエルの使命、そしてアイデンティティを明確に示されたのでした。

『ヨハネによる福音書』では、主イエスは自らを「まことのぶどうの木」、父なる神を「農夫」、弟子たちを「枝」にたとえられます。枝が実を結ぶためには木につながっている必要があります。同様に弟子もキリストにつながっていなければ実を結ぶことはできません。実を結ばない枝は取り除かれ、実を結ぶ枝はさらに豊かに実るように整えられます。主の御言葉によって、その愛の内に生きるなら、願いは聞き入れられると約束されます。主イエスこそ、弟子たちに良い実を实らせることができる「まことのぶどうの木」なのです。

## 《神の招き》

前奏 『前奏曲』デュ・オヴェハ  
招詞 申命記30章9節  
賛美歌 457

## 《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り  
聖書 出エジプト記19章1～6節 (旧約115頁)  
ヨハネによる福音書15章1～11節 (新約194頁)

子ども説教  
交読詩編 詩編95編1～11節 (113頁)  
賛美歌 416  
説教 「まことのぶどうの木」 八木浩史牧師  
祈禱  
賛美歌 393

## 《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条  
役員就任式 98  
献金 献金当番  
祈禱  
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

## 《派遣》

頌栄 25  
祝福  
報告 5月誕生者祝福  
後奏 『小品「72のオルガン作品集より」』バトマン

礼拝当番: (役員: ) 献金当番:  
音響: 映像: